農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

上越市長 中川 幹太

市町村名 (市町村コード)	上越市 (15222)
地域名 (地域内農業集落名)	有田区 (西小猿屋、中小猿屋、東小猿屋、三田、三田新田、三ツ橋新田、三ツ橋、福田、佐内、三ツ屋、安江、上源入、下源入、松村新田、下門前、塩屋新田、春日新田、川原、府門)
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年12月11日 (第2回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。
 注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

当地区は上越市の北部に位置し、関川流域の低平地に広がる水田地帯であり、水稻を中心に大豆、えだまめ等を組み合わせた営農を展開している。地区内の内、北陸自動車道から南側のエリアでは、基盤整備事業(経営体育成基盤整備事業 中江北部第2地区)が令和3年度に完了しており、北側のエリアでは現在面工事が進められており、令和7年度に完了予定である(経営体育成基盤整備事業 中江有田地区)。
 地区内では、農業者の高齢化が進み、農業従事者数はゆるやかに減少しているものの、基盤整備事業をはじめ、担い手への農地集積に取り組むことで、農地面積を維持してきた。
 今後については、後継者不足のため、一部の中心経営体に農地が集まり、中心経営体に負荷がかかり過ぎるのではと懸念する声がある。また、集落全体が高齢化する中でいかに用水管理を維持するか、あるいは基盤整備事業の地区外農地をいかに維持するかなどの課題がある。

(2) 地域における農業の将来の在り方

水稻をメインに、園芸との複合型営農に取り組む農業者が多い地区である。また、基盤整備事業を機に、園芸品目の更なる拡大も検討されている。今後も、水稻をメインとしながら、園芸を組み合わせ、農地の保全と農業所得向上の両立を図る。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	236 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	236 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	- ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

優良農地保全の観点から農振農用地をその区域とする。

注:区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
離農者が出た場合には、農業委員会等に相談し、地域内で効率的な農地利用が図られるよう、利用調整を行う。
(2)農地中間管理機構の活用方針
離農者が出た場合には、耕作放棄地が発生しないよう、農地中間管理機構を通じた利用権設定により、担い手へ農地を貸し付ける。
(3)基盤整備事業への取組方針
経営体育成基盤整備事業 中江北部第2地区が令和3年度に完了。経営体育成基盤整備事業 中江有田地区については令和7年度に完了予定である。未実施のエリアについては現在のところ計画はない。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
地域内外を問わず、入り作を含めた農業者の受け入れによる担い手確保を積極的に進める。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
防除など、委託による効率化が可能な作業があれば、地域内外の事業者への作業委託も視野に入れる。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

☐ ①鳥獣被害防止対策	☐ ②有機・減農薬・減肥料	☒ ③スマート農業	☐ ④畑地化・輸出等	☐ ⑤果樹等
☐ ⑥燃料・資源作物等	☒ ⑦保全・管理等	☐ ⑧農業用施設	☐ ⑨耕畜連携等	☒ ⑩その他

【選択した上記の取組方針】

- ③ドローン技術の導入など、スマート農業技術を積極的に取り入れ、農作業の労働コスト削減に取り組む。
- ⑦多面的機能支払制度を活用し、農道や水路など農業用施設の保全管理に取り組む。
- ⑩引き続き、水稲+園芸の複合型営農により、農地保全と農業所得向上の両立を図る。